2 瑞花双鳥鏡 荒屋敷遺跡（喜多方市）
直径 10.7 cm　縁高 0.9 cm
最大厚 0.5 cm　重量 101g

２は七葉の花弁を鈕座とし、やや肉薄の陽刻で文様が描かれています。内区は、鈕を中心に左右に二羽の鳥が対面し、その周りを瑞花文が配されています。
外区は、唐草様の瑞花文が四単位巡っています。

３・４は鏡背面を上に向けて、重ねられた状態で出土しました。
３は捩菊座の鈕を中央に配し、圏線を跨ぐように、松葉を銜えた二羽の鶴が羽ばたく様子を描いています。
４は菊花座の鈕で、竹垣を配した草木の中で二羽の雀が遊ぶ構図となっています。

3 松喰鶴鏡 古宿遺跡（石川町）
直径 11.0 cm　縁高 0.6 cm
最大厚 0.4 cm　重量 84g

4 竹垣双雀鏡 古宿遺跡（石川町）
直径 9.8 cm　縁高 0.5 cm
最大厚 0.4 cm　重量 64g

5 蓬莱鏡 鍛冶屋遺跡（楢葉町）
直径 10.0 cm　縁高 0.5 cm
最大厚 0.4 cm　重量 81g

５の鏡背面の中央には、菊花座の鈕が設けられています。鈕の左側に二羽の鶴を配し、鈕の周りに山水文や波文が見えます。この図柄は古代中国において、海上にある神仙が住まう理想郷と考えられいる蓬莱山を表しています。
また、この鏡は大きく歪んでいるだけでなく、鏡縁の内側に穴が２か所開いていました。
鏡は邪悪なものを寄せつけない呪物としての側面もあることから、建物内に邪悪なものの侵入を阻むために、釘で柱に打ち付けられていた可能性が考えられます。

6 蓬莱鏡 向山遺跡（相馬市）
直径 10.9 cm　縁高 1.0 cm
最大厚 0.9 cm　重量 393g

６は５と同様に蓬莱鏡と分類されます。鏡背面の中央には、亀形の鈕が設けられ、頭や手足の表現だけでなく、甲羅には六角形の亀甲模様が施されています。
亀形鈕の左側には、二羽の鶴を配し、鈕の右側には滝を表現する流水文が見られます。鈕の下部は内区と外区を跨ぐように、大海のうねりを表す波文が描かれています。鶴や山水文の周りから外区にかえては、松葉や竹を散らし、鏡背面の全体が縁起の良い風景や動植物で飾られています。

まほろん
和鏡コレクション

福島県文化財センター白河館

福島県文化財センターでは、福島県が実施した埋蔵文化財の発掘調査によって得られた様々な資料を収蔵しています。

これら膨大な量の資料のうち、金属質や木質資料は通常の保管環境では錆や腐食等により劣化が進行するため、温度や湿度を管理できる特別収蔵庫に納められています。

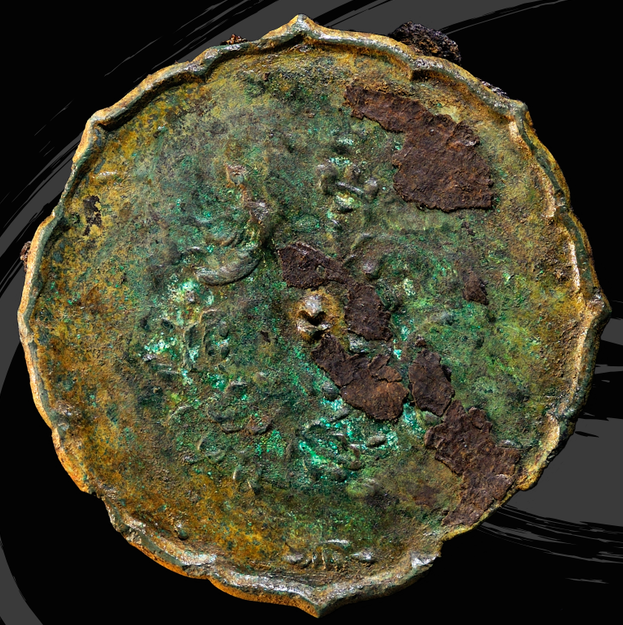
本展示では、当館の特別収蔵庫において収蔵する平安時代から江戸時代にかけての和鏡を紹介します。

1 瑞花双鳳八稜鏡　栗木内遺跡（玉川村）

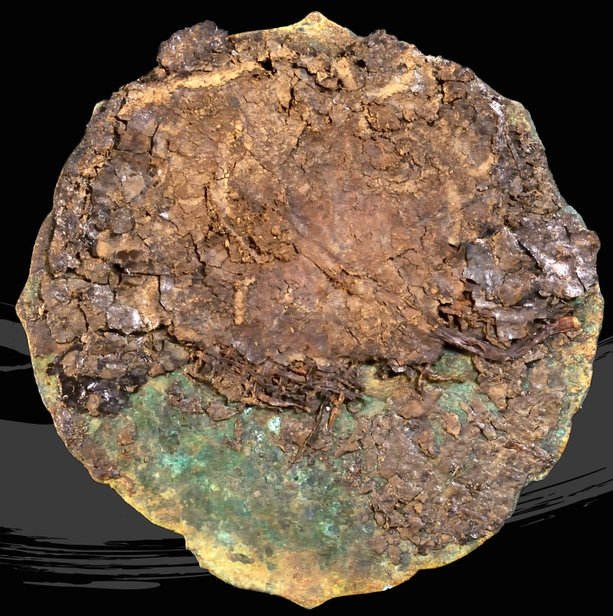
鏡縁が八枚の花びらをかたどった八角形の鏡です。鏡背面には二羽の鳳凰と瑞花文が表現されています。

鏡面には、麻布を芯とし、絹布を貼り込み、漆で塗り固めた付着物が認められます。鏡を納める容器の一部と推定されています。

鏡背面



鏡面



直径 9.9 cm　縁高 0.4 cm　最大厚 0.7 cm　重量 47g

7 花鳥柄鏡　木村舘跡（郡山市）

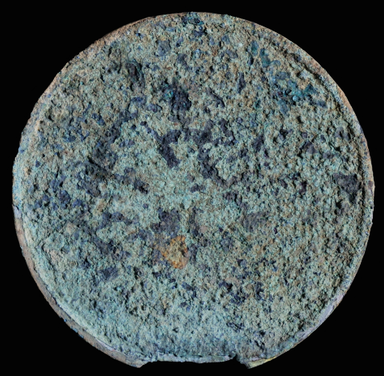
直径 6.0 cm　縁高 0.3 cm　最大厚 0.1 cm　重量 16g

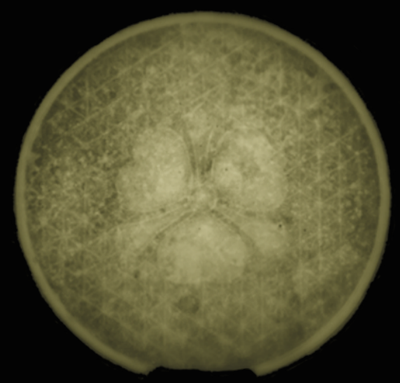
7は柄を欠損しています。鏡背面には川辺に咲く草花（椿か？）と空に舞う鳥（雁か？）を配した風景を図案としています。また、製作者を表す「加賀田河内守」の銘が見えます。

8は砂目地を地肌とする鏡背面にナデシコの花姿を描く柄鏡です。製作者を表す「上嶋和泉」の銘が見られます。

8 撫子柄鏡
師山遺跡（新地町）

直径 8.4 cm　柄長 3.0 cm
最大厚 0.3 cm　重量 34g





9 姫路剣片喰紋柄鏡　西原遺跡（相馬市）

直径 8.4 cm　縁高 0.7 cm　最大厚 0.3 cm　重量 43g

9のX線写真（右写真）から、「麻の葉模様」を地紋とし、中央部にハート形をなす３枚のカタバミの葉と３口の剣をあしらった「姫路剣片喰」と呼ばれる紋所が描かれています。

10の竹虎方鏡は、竹林に座す虎を現し、製作工房を表す「天下一」の銘が見られます。鈕が２か所あり、孔の内部に房緒の一部が遺存しています。

10 竹虎方鏡
西原遺跡（相馬市）

長辺 8.8 cm　短辺 5.8 cm
最大厚 0.6 cm　重量 54g